

新学習指導要領に基づいた 球技（バレーボール）の指導計画の提案

渡辺 冬花（千葉） 浅野 博允（船橋） 磯貝 友香（市川浦安）
 岩田 幸（松戸） 丸山 恭士郎（習志野） 荒木 翼（八千代）

1 はじめに

本グループでは、平成33年度より全面実施となる新学習指導要領の内容を踏まえて、球技の学習における言語活動を促進し、子どもたちの他者に伝える力を育むことに着目した授業を目指して、第二学年を対象とした指導計画例を作成した。学習者である生徒に運動技能のレベル、体力差があるのは当然である。これらの差がある者同士が、お互いを認め合い、協力しながら、技能の向上やバレーボールの楽しさを味わえる学習を目指したい。

2 単元について

バレーボールは、ネットを挟んで相対する2チームが一つのボールを落とさずにつなげて攻防を展開し、得点を競い合う競技である。三段攻撃など組織的な攻撃を展開するためには、まずパスをつなげる技術の習得が欠かせない。本実践では、ICT機器の活用やアドバイス活動の充実を図り、生徒が練習や言語活動を通して高め合い、技能向上が図ることができる指導計画を立てた。

3 単元の目標

- (1) 勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲーム展開できるようにする。
 - ボールの操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。
- (2) 球技に積極的に取り組むとともに、(フェアなプレイを守ろうとすること)、(分担した役割を果たそうとすること)、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康安全に気を配ることができるようにする。
- (3) 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、(課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。)

4 評価規準 ※学習活動に即した評価規準のみ記載

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。	①ボール操作やボールを持たないときの動き方などの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。	①身体を操作してボールを味方につないだり、相手側のコートに打ち返したりできる。	①球技の特性や成り立ちについて学習した具体例を挙げている。
②作戦などについて話し合いに参加しようとしている。	②自己やチームの課題を見付けている	②自分のコートに空いた場所を作らないように定位置に戻り次の攻撃に備えるボールを持たないときの動きができる。	②技術や名称や行い方について学習した具体例を挙げている。
③健康・安全に留意している。	③仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。		③球技に関連して高まる体力について、具体例を挙げている。

5 教科の課題と指導と評価の計画との関連

(1) 生徒の話し合い活動の活性化の促進

簡単な話し合い活動の時間を設定し、教師や仲間の助言、学習資料を参考に、身に付けるべき技術のポイントを他者に伝えることができるようにする。

(2) 生徒の自己評価の有効活用

生徒のことばで表現された感覚的な気付きを、『今日の名言』として次時の導入部分で紹介し、生徒の技能向上と言語活動の活性化の促進を目指す。

6 指導と評価の計画（10時間扱い）

時	学習活動と内容	教師の指導・支援	評価の観点と方法
1	○オリエンテーション ・学習のねらい、ルールを理解する。 ・チームを編成して、役割分担を決める。 ・学習カード、資料の使い方を理解する。	○バレーボールのねらいを確認し、学習の進め方を理解させる。	知①③【カード】
2 ～ 8	○学習の流れの確認 ・準備運動、補助運動の流れを把握する。 ○基礎技術の習得 ①パス (オーバーハンドパス、アンダーハンドパス) ②アンダーハンドサーブ ・チームで準備運動、補助運動を行う。 ・学習カードや、付箋に学習の成果を記入する。(役に立った助言、発見したコツ、変化など)	○役割分担に従って、用具の準備をさせる。 ○「ボールはかごに入れる」など安全に関わる留意事項を徹底させる。 ○補助運動、基本練習は正確に行わせる。 ○段階的な指導を工夫する。 例：直上パス→対人ワンバウンドパス→対人パス→ネットをはさんだパス ○学習の初期段階では2人組の活動を中心とし、ボールに触れる機会を多くする。 ○助言し合いながら練習するように促す。 ○話し合い活動を通して、チームの課題を見付ける。 ○学習カードや付箋に記入されたコメントを『今日の名言』として紹介し、学習活動に生かす。	思③【カード】 関③【観察】 思①【カード】 関①【観察】 技①【観察】 思②【観察】 知②【カード】
9 10	○パスゲーム 【初期の段階でのルール】 コート：バレーボールコート 人数：6～7人 勝敗の決め方：パスでの攻防 ☆相手コートに返すまでの触球回数は制限しない。	○『今日の名言』、付箋活動は継続する。 ○チームの課題の確認 ・課題は解決されたか ・次の課題はなにか ○生徒の習熟状況に応じて、ゲームのルールを発展させる。	関②【観察】 技②【観察】

7 本時の指導（4／10）

（1） 本時の目標

- チームや個人の課題解決を目指して、練習を工夫することができる。（思考・判断）
- 役割や状況に応じたボール操作 ができる。（技能）

（2） 本時の展開

過程	時配	学習活動と内容	指導上の留意点（支援○ 評価◎）
はじめ	10分	用具を準備する。 1 整列して挨拶する。 2 欠席者と見学者の報告をする。 3 前時の振り返りと本時の学習課題を確認する。 4 準備運動を行う。（チームごと） ①関節運動・ストレッチ体操 ②ランニング3周 ③健康観察	○体育委員の号令で行い、服装を整え、元気な声のできるよう言葉をかける。 ○見学者には学習の補助の内容と方法を指示する。 ○前時のカードの中から、本時につながるコメントを『今日の名言』として紹介する。 ○学習資料を活用し、課題解決の手立てを考えさせる。 ○10秒間脈拍測定 （10秒間の脈拍数×6＝120～140回／分） ○安全に留意させるとともに、生徒の動きを観察し、正確に行っていない生徒に声を掛ける。
なか	15分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 本時の目標 相手のサーブを正確にレシーブしてセッターに返そう。 </div> 5 2人組でパスの練習を行う。 ①チーム内で2人1組を作りアンダーハンドパス、オーバーハンドパスの練習 ②チーム内でセッターにパスを返す練習	○練習パートナーとの助言や補助が円滑に進まないグループへの個別指導を行う。 ○練習をiPadで撮影し、生徒に動きを確認させる。 ○iPadで動画を見て、技のイメージと実際の自分の出来映えを比較し、改善点を見つけさせる。 ○仲間にアドバイスをしながら教え合うように促す。

なか	15分	<p>③パス練習の振り返り チーム内でアンダーハンドパスやオーバーハンドパスの完成度について確認し合う。</p> <p>6 技能の向上が図られたかどうかを確かめるゲームを行う。</p> <p>《ルール》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6対6で行う。 ・ 触球回数は制限なし。 <p>○試合と試合の間にチームの課題が解決できたかをチームで評価する。</p>	<p>○各パスの技術ポイントを助言する。</p> <p>◎振り返り活動を通して、パスを続けるための課題を発見することができたか。</p> <p style="text-align: right;">【思②カード】</p> <p>○互いに助け合い教え合うことを促す。</p> <p>◎役割に応じたボール操作ができたか。</p> <p style="text-align: right;">【技①観察】</p>
まとめ	10分	<p>7 整理運動と健康観察を行う</p> <p>8 本時のまとめをする。</p> <p>9 次時の課題を確認する</p> <p>10 あいさつをする</p>	<p>○全員一斉で行いながら、健康観察を行う。</p> <p>○成果と課題について評価の観点を明示する。</p> <p>○仲間の発表を参考にしながら、次時の課題や見通しをもつことができるようにする。</p>

8 おわりに

(1) 成果と課題 (○：成果 ▲：課題)

- チーム内、二人組での教え合い活動が活発になることが、技能の向上やパスがにつながる要因の一つとなったと考えられる。
- ICT機器の活用や『今日の名言』、付箋を活用したアドバイス活動を行うことによって、気付いたことをチーム内で共有し、教え合う活動を促進できた。

▲ 自分たちの意見を活発に出し合うためには、教師の支援が必要であり、他の単元でもアドバイス活動を位置付けた指導計の立案と実践が必要である。



二人組のパス練習の様子

(2) 今後の方向性

個人技能の教え合い活動は活発にできたが、集団的な技能や戦術の話し合いまでは到達していない。三学年の指導計画では、個人技能と集団技能の練習をバランスよく指導計画に入れ込むことや、バレーボールの単元に限らず、その他の単元でも話し合い活動を取り入れた授業にすることで、生徒の言語活動の促進を促していきたい。